

平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 10 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 27 年 10 月 14 日に稚魚調査を実施した。天気は晴れで、気温 19.7～22.3℃、北のち南よりの風 2.7～3.6m で海は平穏だった。当日は大潮で、11 時 38 分干潮、17 時 19 分満潮（東京都港湾局のデータ）。魚は上げ潮に乗って来ることから、最干時の少し前から、上げ潮時をねらって調査した。各地点の概況を下表に示す。

各調査地点では、8 月調査と比較して魚類の数量が極端に減少し、その他の生物では葛西人工渚を中心に多く獲られていたニホンイサザアミが極端に減少した。魚類稚魚に関しては、成長または餌量としてのイサザアミ類の移動に伴い稚魚期の生活域である干潟より移動したものと地推定される。

2015/10/14	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
作業時刻	10 : 40～11 : 10	11 : 30～12 : 10	14 : 25～15 : 00
水温 (°C)	22.4	22.0	21.9
塩分	20.1	17.8	26.9
透視度 (cm)	50	54	85
D0 (mg/L)	4.9	7.1	6.6
D0 飽和度 (%)	65	93	88
波浪 (m)	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
pH	7.5	7.9	8.0
水の臭気	カビ臭	弱カビ臭	弱カビ臭
備考			

注) 塩分、D0、pH の値は計器測定値。

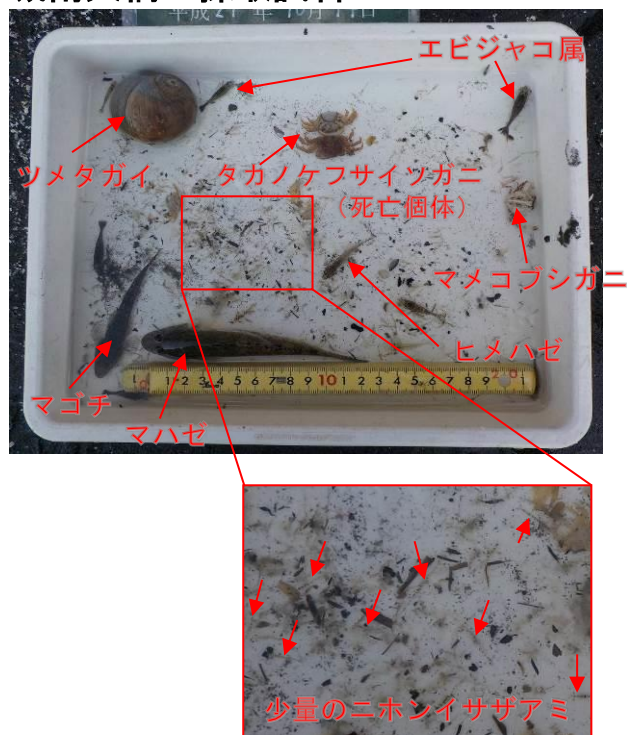
●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ (r)	マゴチ (r)	ビリンゴ (+)
	ヒメハゼ (r)	マハゼ (r)	クサフグ (r)
	マゴチ (r)	ビリンゴ (r)	
魚類以外	ニホンイサザアミ (+)	ニホンイサザアミ (G)	シラタエビ (+)
	エビジャコ属 (+)	シラタエビ (G)	ホトトギスガイ (r)
	ツメタガイ (r)		コウロエンカワヒバリガイ (r)
備考	他に、マメコブシガニ、タカノケフサイソガニ（死亡個体）を確認。	干潟のヨシ原の際でトビハゼが頻繁に確認された。	

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



地曳網で捕獲された魚類は、マハゼ成魚、マゴチ・ヒメハゼ稚魚のみであった。その他の生物としては、少量のニホンイサザアミのほか、エビジャコ属、ツメタガイ、マメコブシガニの体色変異個体等が確認された。



今回捕獲されたマハゼは、全長約15cmの成魚であった。マハゼ成魚は今後産卵に向けて沖合の砂泥底に移動する。



ヒメハゼは他の干潟のハゼ科魚類と違い夏季に産卵を行う。捕獲されたのは夏生まれの小型個体であった。



前回の調査で捕獲されたマゴチは平均4cm弱であったが、今回捕獲された個体は、8cmと約2倍に成長していた。



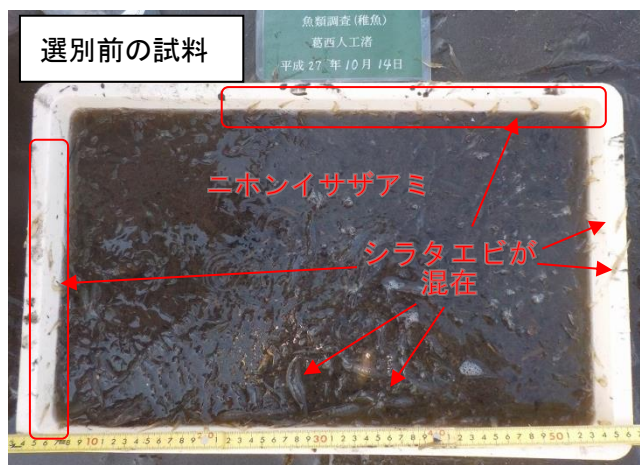
東京湾の砂泥底の浅海に多く生息する、中型の肉食性巻貝で、アサリ、バカガイ等の殻に穴を明け捕食する。



東京湾の干潟に多く生息する小型のカニで、通常褐色の目立たない色をしているが、色彩変異が多い。



葛西人工渚 採取試料



前回の8月調査では10kg以上のイサザアミ類が捕獲されたが、今回の調査では推定で1/5以下に減少していた。当日は北風であったため、南向きの干潟に集められなかった可能性も考えられる。代わりに小型のシラタエビが多く捕獲された。魚類はマゴチの稚魚および、ビリンゴ、マハゼが少量確認されたのみであった。



葛西人口渚で捕獲されたマハゼは全長12cm程度で、城南大橋よりやや小型であった。



葛西人口渚では、成魚はあまり多くないが、干潟のアナジャコやゴカイなど、他の動物が掘った穴を利用して巣を造ることもある。



マゴチは全長12cm程度の成長の良い個体であった。これから干潟域を離れると思われる。



シラタエビは約5cm成長にするが、捕獲個体はいずれも2cm未満の小型であった。本干潟で繁殖したと推定される。



調査地点の様子



地曳網の様子

<トピックス：葛西人工渚調査地点後背地の環境>



干潟の表面には付着藻類が繁殖している。これらの藻類は干潟の甲殻類の主要な餌になっている。



干潟の表面に、開いている直径 20～30cm の穴はアカエイが貝類やアナジャコ等の底生動物を捕食した痕である



調査地点の東なぎさではヨシ原が拡大傾向にあり、それに伴いトビハゼの生息数が増加している印象を受ける。



東京湾のトビハゼは北限の地域個体群であり、東京都のレッドリストでは絶滅危惧ⅠA類に指定されている。

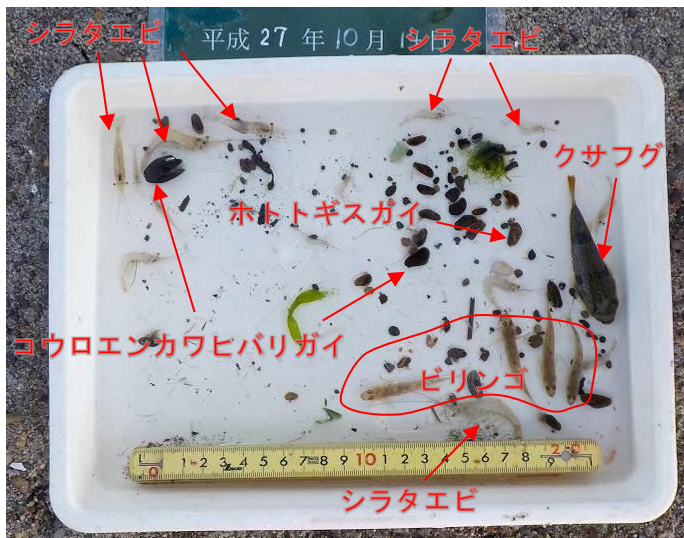
調査地点の後背地の環境



トビハゼの生息域

アカエイの食痕

お台場海浜公園 採取試料



魚類はビリンゴとクサフグ、その他の生物としてはシラタエビとコウロエンカワヒバリガイ、ホトトギスガイ等、主として干潟に生息する種が確認されたが、その個体数はいずれも少なかった。降雨による河川水の流入、貧酸素水塊の発生等が考えられるが、原因は不明である。



クサフグ

クサフグは、前回（8月）調査に引き続き捕獲された。完全に本調査地点に定着していると判断される。



ビリンゴ

ビリンゴは例年に調査結果より、本調査地点に定着していると判断されるが、今回は少なかった。



シラタエビ

お台場海浜公園で捕獲されたシラタエビは葛西人工渚のものより大型であった。



コウロエンカワヒバリガイ

ホトトギスガイとともに内湾干潟域に生息するが、本種のほうが低塩分に耐性があるようである。



調査地点の様子



地曳網の様子